

### ご挨拶

こんにちは、千代田園芸社の石倉です。

ようやく第2号が発行することができました。



千代田園芸社の石倉です。

### あなたの松が鶴の足になっていませんか？

今年の初めのことですが、勉強のために金沢の兼六園に15年ぶりに行きました。

以前は、所要で行きましたので、ほんの少し時間を取って覗いただけでした。その時は素晴らしく、壮大な庭園に感動したのですが、今回 美術館側から兼六園の門をくぐって直ぐ、松を見て驚いてしまいました。松が鶴の足のように葉がむしられていたからです。いつから?このごろこんなのが多いな。どうしてだろう。庭師はどうした？



枝が細くなって垂れ下がっているのがわかりますか

私が生まれた町は、稲沢市目比町（むくいちょう）です。造園の仕事で、私は祖父から大きな影

響を受けています。

その一つが、松の切り方です。独特の葉を短く仕立てる方法です。ある日祖父から

「この木を駄目にしてもいいから切ってみろ」と言われました。

それは、祖父が長年育てている大切な松の木です。近所の同業のおじさんが、通りがかりに「あんな奴に木を切らしたら、枯らしてしまうぞ」なんて言っています。

それもそのはずです、4月から仕事を始めてその夏の7月ですから仕事を始めてたった3ヶ月足らずです。

しかも何十万円もするような木でしたので、そう言われるのももっともです。

私は、「本当にいいの?」って思いましたが、祖父は大胆な人で失敗しても後からごちゃごちゃいう人ではなかったので、腹をくくることができました。

いざ伐ろうとして、はさみを持つのですが、どこから伐っていいのかわからないんです。

固まってしまいました。

どこから伐ればいいのか祖父に尋ねたところ、祖父の一言は、「とにかく枝は薄く造れ」でした。

それです、上に出ている枝、下に出ている枝かはさみを入れました。

後は、小さい頃からみていたこと思い出しながら、作業を進めることができました。

それ以来祖父からは、最小限の枝で、これ以上落とせない状態できれいに見せるのがいい。と教えられ

てきました。茶道とか華道のように無駄のないところに美を求めるといふ考え方だと思います。

目比町は昔盆栽の産地でした。その中で松は目比(むくい)松と言って、葉を短く創る独特の剪定方法でした。中芽をかけると言います。盆栽は庭木に比べ小さく、室内で鑑賞することがおおいので、夏剪定して中芽をかけることで葉を短くし誰が観てもキレイに見えるという方法が考え出されたのだと思います。

この目比松(むくいまつ)の手入れの仕方を、継承している人は、目比町でもどんどん減っています。ましては、桑名でこの手入れの仕方をしていふ松をほとんど見たことがありません。

桑名でみられる松の手入れは、夏新芽が伸びてその分秋古い葉を落とすという方法です。

その方法だと秋の手入れ方を正しくしないと枝足がだんだん伸びて、鶴の足のように葉のない部分が長くなって、最初の頃の松の姿がなくなってしまいます。兼六園もこの状態になろうとしています。何百年も守られた松が姿をかえようとしています。

秋の手入れ方も正しく出来る人が減っています。私が見るところ、この鶴の足になりそうな松が結構増えています。

鶴の足になりかけているお宅がお近くにありましたら、直ぐに止める必要があります。松は他の木と違って、もとに戻らない木なのです。

また剪定の仕方に不安があるようであれば、無料で点検させていただきます。声をかけてください。

目比松の話にもどりますが、中芽をかける芽伐りの難しいところは、芽を伐りすぎてしまうと枯

れてしまいますし、逆に残しすぎると1つの芽に3つ芽が出ますので団子状になってしまいます。これを残してしまうと翌年また3倍になり、翌々年9倍になって大変なことになっていきます。この調整が非常に難しいのです。

その目比松がこれですが、解りますでしょうか？そんな訳で、この目比松(むくいまつ)剪定の仕方を伝えて行きたいと思ひます。

## プロが教えるゴールデンウィークのお庭の



目比松キレイだと思いませんか？

## 手入れ法

時間が多く取れることを考えますと、まず芝の手入れをするのが良いと思ひます。

芝の手入れ方法ですが次の手順でいくと効果的です。

- 1、草を取る
- 2、芝を刈る
- 3、施肥をする

(お勧めは窒素とりんとカリウムが8:8:8)

当たり前ですが、草を取ってから施肥をしないと草に肥料をやっているようなものです。

芝刈りをする前に施肥をすると、折角撒いた肥料を捨ててしまうこととなります。

肥料の欲しい方は、ご連絡ください。プロ用の肥料は少々在庫しております。